



マルセル・ブロータース、(近代美術館蔵部門「セクションシネマ」にて(デュッセルドルフ、1971年) Courtesy | Estate Marcel Broodthaers Photo | Joachim Romero Frias



裁かるゝジャンヌ



キートンの探偵学入門



レベッカ



夜

# 10月26日

## 「映画をめぐる美術 マルセル・ブロータースから始める」展

### 美術が読み解く映画たち

2013年10月26日(土)、27日(日)

「映画をめぐる美術」展の関連企画として、ブロータースおよび出展アーティストたちが作品の中で言及している映画を取り上げる。

1日目は無声映画期において、突出した表現の密度を示したドライヤーの名作と、喜劇王チャップリン、キートンによる自己言及的なスラップスティック・コメディ、2日目は比類ない作家性をもち、後進の映画作家を刺激し続けるヒッチコックとアントニオニーの代表作を上映する。

26日(土) 14:00-15:31

### 裁かるゝジャンヌ LA PASSION DE JEANNE D'ARC

91分 | 20fps | 35mm | 白黒 | 無声  
'28(フランス) 監・脚 | カール・Th.ドライヤー 撮 | ルドルフ・マテ 美 | ヘルマン・ヴァルム、ジャンヌ・ヴィクトル・ユゴー 出 | ルネ・ファルコネツティ、ウジェーヌ・シルヴァン、モーリス・シュッツ、ルイ・ラヴェ、アンドレ・ベルレール、アントナン・アルトー、シルベール・ダルー、ジャン・デイドウ

古文書の記録をもとにジャンヌ・ダルク裁判の忠実な再現を試みる一方、実際には数ヶ月に及んだ裁判を1日の時間に凝縮し、ほぼ全篇をクロス・アップとインタータイトルだけで構成。因習的な映画話法から解放されたカール・ドライヤー最後の無声映画。

26日(土) 15:50-17:14

### キートンの探偵学入門 SHERLOCK JR.

44分 | 24fps | 16mm | 白黒 | 無声  
'24(アメリカ) 監・出 | バスター・キートン 脚 | クラウド・ブルックマン、ジーン・C.ハヴェズ、ジョゼフ・A.ミツェル 撮 | エルジン・レスリー、バイロン・フック 美 | フランツ・ウーリー 出 | キャサリン・マクガイア、ジョー・キートン、ウォード・クレイン、アーヴィン・コネリー、ジェーン・コネリー、フォード・ウェスト、ジョージ・デヴィス、ホラス・モーガン

無声映画期のアメリカ喜劇を代表する作品の一つ。恋人を失いそうになって、気がふさぎ、作中に居眠りをしてしまった探偵志望の映画技師。彼は自らが探偵となって大活躍し、悪漢にさらわれた恋人を助け出す映画の夢を見る。キートンの超人的なアクションの連続に注目。

26日(土) 15:50-17:14

### チャップリンの替玉玉 THE FLOORWALKER

20分 | 24fps | 35mm | 白黒 | 無声 | 弁士キー版  
'16(アメリカ) 監・脚・出 | チャールズ・チャップリン 撮 | ウィリアム・C.フォスター、ロランド・トザロー 美 | E.T.メイジー 出 | エドナ・パーヴァリアンス、エリック・キャンベル、ロイド・ベイコン、アルバート・オースティン、ジョーン・ランド、レオ・ホワイト、フランク・J.コルマン、ジェイムズ・T.クリグ、シャーロット・ミノ、リオ・ブライアン

チャップリンのミュージュアル社移籍第1作。チャーリーそっくりのデパートの売場監督が店長とともに売り上げを持ち逃げしようとして、チャーリーを替玉に仕立てるが、失敗に終わる。エレベーター、エスカレーターの上下運動を生かしたドラマティックなアクションが秀逸。

27日(日) 14:00-16:09

### レベッカ REBECCA

129分 | 35mm | 白黒  
'40(アメリカ) 監 | アルフレッド・ヒッチコック 撮 | ダフネ・デュー・モリア 脚 | ロバート・E.シャーウッド 撮 | ジョー・ジ・バーンズ 美 | ラウル・ウーラー 音 | フランツ・ワクスマン 出 | ローレンス・オリヴィエ、ジョーン・フォン・テーン、ジョージ・サンダース、ジュディ・アンダーソン、レオ・G・キャロル、ナイジェル・ブルース、レジナルド・デニ

大恋愛の末に後妻として富豪の家に嫁いだ女性が、その館に先妻レベッカの影がふさぎ、作中に居眠りをしてしまった探偵志望の映画技師。彼は自らが探偵となって大活躍し、悪漢にさらわれた恋人を助け出す映画の夢を見る。キートンの超人的なアクションの連続に注目。

26日(土) 15:50-17:14

### チャップリンの楽屋騒動 BEHIND THE SCREEN

20分 | 24fps | 35mm | 白黒 | 無声 | 弁士キー版  
'16(アメリカ) 監・脚・出 | チャールズ・チャップリン 撮 | ロランド・トザロー 美 | E.T.メイジー 出 | エドナ・パーヴァリアンス、エリック・キャンベル、ヘンリー・バーグマン、ロイド・ベイコン、アルバート・オースティン、ジョーン・ランド、レオ・ホワイト、フランク・J.コルマン、ジェイムズ・T.クリグ、シャーロット・ミノ、リオ・ブライアン

ミュージュアル時代の第7作。映画の道具方助手を務めるチャーリーは、居眠りばかりの親方に代わって撮影所内を走り回る。撮影現場の各所で騒動を引き起こすが、最後は撮影所に忍び込んだ女優志望の少女と恋仲におさまる。「バックステージもの」の一篇。

27日(日) 16:20-18:21

### 夜 LA NOTTE

121分 | 35mm | 白黒  
'60(イタリア) 監・監・脚 | ミケランジェロ・アントニオーニ 原・脚 | エンニオ・フライヤー、トニー・ガエツラ 撮 | ジョー・ジ・バーンズ 美 | ビエロ・ズツィ 音 | ジョルジョ・ガスリーニ 出 | ジャンヌ・モロー、マルチェロ・マストロヤンニ、モニカ・ヴィツィ、ベルナルド・ヴィッキ、ジョルノ・ネグロ、ロー・マッツクラティ

作家の夫ジョヴァンニと何不自由なく暮らす妻リディア。妻はある夜、親密だった夫の親友の死と夫の浮気を立て続けに知ることなる。音楽はジャズの鬼オジョルジョ・ガスリーニが手がけている。1961年のベルリン国際映画祭金熊賞受賞作品。

# 12月14日

## ワイドスクリーンの魅カ

2013年12月14日(土)、15日(日)

テレビへの対抗策として映画のワイドスクリーン化が始まったのは、3本のフィルムを用いるシネラマが登場した1952年。翌年、左右を圧縮した画像が記録された1本のフィルムを、アナモフィック・レンズにより横方向に拡大して投影するシネマスコープ方式がアメリカで実用化され、世界に波及していく。ここでは、日本映画を中心に、さまざまなジャンルのシネマスコープ作品を取り上げ、テレビでは体験できない大画面の迫力と横長の構図ならではの表現の妙味をお伝えする。



海底軍艦



日本の青春



雨のしのび違い



日本浪花伝

14日(土) 14:00-15:34

### 海底軍艦

94分 | 35mm | カラー  
'63(東宝) 監 | 本多猪四郎 原 | 押川春浪 脚 | 関沢新一 撮 | 小泉一美 | 北猛夫 音 | 伊福部昭 特技監督 | 円谷英二 特殊技術 撮 | 有川貞昌、富岡素歌 出 | 藤田まこと、新珠三千代、黒沢年男、酒井和歌子、光学撮影 | 真野田幸雄、徳政義行 美 | 渡辺明 合成 | 向山宏 出 | 高島忠夫、藤山陽子、藤木悠、佐原健二、上原謙、小泉博、田崎潤、天本英世、藤田進、高田稔

明治を舞台にした押川春浪の原作を戦後の日本に置き換え、ムウ帝国による世界征服計画という要素を加えた海洋冒険SF特撮映画。海底軍艦・轟天号のデザインは小松崎茂によるもの。東宝特撮スタッフによる、全長5メートルのミニチュアを使った進水シーンは迫力満点。

15日(日) 14:00-15:33

### 雨のしのび違い MODERATO CANTABILE

93分 | 35mm | 白黒  
'60(フランス=イタリア) 監 | ビーター・ブルック 原・脚 | マルグリット・デュラス 脚 | ジェラルド・ジャロ 撮 | アルマン・ティラール 美 | ジャン・アンドレ 音 | アントニオ・ディアリ 出 | ジャンヌ・モロー、ジャン＝ポール・ベルモンド、ディエゴ・オードバン、ヴァレリー・ドブジンスキ

女性殺人事件の現場でひとりの労働者として知り合った社長夫人が、愛のない閉塞した生活から脱出しようとする。デュラスの作家小説「モデラート・カンタービレ」を、英国演劇界の俊英ブルックがややメロドラマ性を加味しつつ映画化、モローが有閑マダムを演じ切った。

14日(土) 15:50-17:59

### 日本の青春

129分 | 35mm | 白黒  
'68(東京映画) 監 | 小林正樹 原 | 遠藤周作 脚 | 廣津榮 撮 | 岡崎宏三 美 | 小島基吉 音 | 武満敏 出 | 藤田まこと、新珠三千代、黒沢年男、酒井和歌子、佐藤慶、田中邦衛、奈良岡朋子、花沢徳衛、内中幸、山本清、曾貴太郎、橋本功、児玉泰次、田中幸四郎(解)三島雅夫、小泉博、田崎潤、天本英世、藤田進、高田稔

遠藤周作が中年男の戦中・戦後史をほろ苦いユーモアで描いた小説「どっこいシヨ」の映画化。学徒出陣の経験をもつ男が20年ぶりに初恋の人とリンチを加えた上官に再会、戦後日本の歪んだ社会状況と人間関係が浮きぼりにされていく。

15日(日) 15:45-18:15

### 日本浪花伝

150分 | 35mm | カラー  
'73(東宝映画) 監・原・脚 | 加藤泰 撮 | 村井博 美 | 阿久根義 音 | 橋本創 出 | 真木洋子、藤原釜足、村井国夫、大塚道子、見明凡太郎、渡哲也、加藤剛、北大路欣也、富田仲次郎、原田佳事、柳田敬二、加藤茂雄、小川安三、大木正司、林光子、ディエゴ・オードバン、ヴァレリー・ドブジンスキ

主に東映仁映映画の名手として知られていた加藤泰監督が東宝で演出した大作。大正初期を背景に、真木洋子が演じる主人公と刺客に扮する渡哲也など彼女が関わる男たちの姿を、独特の低いカメラアングルのなかにとらえ、激しくも美しい女の半生記に仕上げている。

NFC所蔵作品選集

# MoMAK

2013.10 — 12